

第3回協議会だより 《中方部》



令和7年1月24日（金）14:30～16:40 市役所 正庁

【実践発表】 郡山ザベリオ学園幼稚園

遊びや生活を通して育まれる資質・能力について～学びの連続性を見通したアプローチカリキュラムの実践～
就学に向けた幼保と小の情報共有について



ザベリオ学園幼稚園は、自分も相手も大切に作る心の教育や生きる力と自立心を育むモンテッソーリ教育を行っています。この教育の特徴として縦割り保育があり、信頼関係を構築しながら互いに学びを高めています。アプローチカリキュラムの中でのモンテッソーリ教育と保育内容、ザベリオ小学校との交流について発表していただきました。クラスは3・4・5歳児で構成され、教具等を自由に使って遊ぶ自由選択活動とクラス活動をバランス良く計画しており、異年齢または同年齢と実施しています。色水遊びでは、3歳児が5歳児の真似をして花びらを集めてすり鉢で擦るといふ事例や行事等で育まれた資質・能力について紹介されました。ザベリオ小学校との交流は年間を通して複数回あり、制作、運動、授業体験等で交流を図っています。上記写真は小学生と一緒に「スイミーが見た海」を表現しました。この他にも先生同士の研修や参観も行い、相互理解を深めています。まさに架け橋プログラムの参考となる貴重な実践でした。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ ザベリオ学園幼稚園の発表について

- ・保育のねらいや目的を明確にして縦割り保育を実施しており、良い環境のもとで異年齢児が共に生活しており、素晴らしいと感じました。お互いに良い刺激となり、心の教育や生きる力と自立心を育てていることが分かりました。
- ・小学校との交流が盛んに行われており、交流のみに留まらず、幼保と小で評価、検証をしてカリキュラムを実施している他、先生方同士で研修をするなど幼保と小を繋ぐカリキュラムを実施していることを知り、今後の幼保小連携の在り方について深く学びました。

☆ 幼保小の架け橋プログラム」に期待することについて

- ・「気になる子の支援」「保護者対応」「小1 プロブレムの実態と具体的対応」「アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの活用状況」の視点で話し合いました。不登校や登校渋り等の現状を目の当たりにして、私たち教育・保育者は、子どもたちが安心して学校生活を送るためにも「幼保小の架け橋プログラム」の重要性を認識しました。

《参加者からのアンケートから》

- ・ザベリオ学園幼稚園の実践を聞いて、今後は、近隣の幼稚園、保育所、小学校との交流会を提案し、入学を迎える子どもたちが、ワクワクしながら期待を膨らませて学ぶ楽しさや意欲が高まるよう努めていきたいと思いました。ありがとうございました。（小学校：参加者）
- ・小学校での困り感や幼保と小で共有したい情報等、たくさん学ばせていただきました。（幼稚園：参加者）

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。